

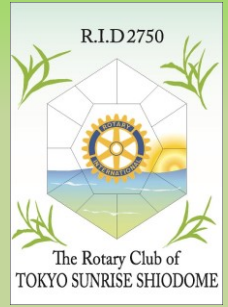
◆ WEEKLY REPORT ◆



世界に希望を生み出そう

R.I. 会長 ゴードン・R・マッキナリー

R.I.D.2750 Chiyoda & Pacific
Basin Group
The Rotary Club of
TOKYO SUNRISE SHIODOME



2023-24 年度 会長 梅澤武男
クラブテーマ「Rotary Fun Fun Fun」

No.338 7 Sep. 2023 発行

第343回 通常例会

【日時】2023年8月31日(木) 12:30~13:30

【例会会場】ザ ロイヤルパークホテル アイコニック 東京汐留

【例会出席】会員数 14名 名誉会員 6名 出席者 12名 ビジター 0名 ゲスト 0名

【出席率】85.7%

【ニコニコBOX】¥10,000—

《プログラム》

◇ 開会点鐘

◇ 斉唱：「国家」「手に手つないで」

◇ 会長挨拶

今日は、海外在住者、休会者の方を除いて、出席率 100%です。小さいクラブですのでこれはこれで良いと思います。

◇ 幹事報告

卓話でお越し頂いた加古川成子様より 9月4日のチャリティコンサートの案内が届いています。新会員オリエンテーションの案内が届いています。希望者は事務局までお願いします。

◇ 表彰：鹿島孝夫前会長

◇ 出席報告

◇ にこにこBOX

梅澤武男：大日方画伯、本日の卓話楽しみにしております。よろしくをお願いします。

熊谷行裕：毎日暑いですが、先日家内と谷川岳ロープウェイで標高 1500mの高原に行ったら、1500mもあるのにとても暑くてびっくりしました。やはりいつもとは違ってきます。

鹿島孝夫：大日方会員の卓話いつも楽しみにしています。

立堀佳男：暑い日が続いています。仕事中は事務所、移動は車で涼しいですが、朝夕の犬の散歩で大汗かいています。

山本直道：大日方さん、卓話宜しくをお願いします。

司 会：杉崎吉則会員
梅澤武男会長

梅澤武男会長

蛸谷要之介幹事

立堀佳男会員

◆ 会長：梅澤武男 ◆ 幹事：蛸谷要之介 ◆ 副会長：愛知とし子【発行責任者】

【創立】2014年10月15日【例会日】毎週木曜日 12:30~13:30【例会場】ザ ロイヤルパークホテル アイコニック 東京汐留
〒160-0022 東京都新宿区新宿 6-18-3 (南エルーデ内) / TEL:03-6380-5798 / FAX:03-6273-1196

【URL】<https://suns-rc.org/> 【E-mail】office@suns-rc.org

◇ 卓話 『水墨画とたわむれる』

大日方真会員

父が教師だったので、小学校中学校の頃は父親と一緒に長野県の田舎の村を転々としていました。戦争が終わったのは国民学校2年生の夏でした。絵を描くのはいやでなかったのですが、遊びの時間には田舎の田畑や山の景色をクレヨンや水彩でスケッチして楽しんでいました。中学2年の5月頃、担任の先生から言われて田舎のバスに40分程乗り、善光寺横の城山公園で行われた写生会に参加しました。そこで描いた風景画特選に選ばれてびっくりしました。

中学を卒業して、上田市の真田城の近くにある上田松尾高校(現在のの上田高校)に入学してすぐに美術班に入りました。進学校だったのですが、勉強は好きでなかったため放課後は毎日お城近くに行って風景を描いていました。2年生の秋、クラスの皆が受験勉強を始めているのを見て、このままでは親不孝になると思って絵を描くのをやめました。受験勉強の仲間に加わったのですが、大学の入試は不合格でした。そのとき父は長野県の最北端にある小林一茶の生地、柏原村の小学校に転勤していたので、野尻湖の近くになる柏原の家にもって1年間受験勉強をしました。

1年浪人して大学に入学し、三鷹市の寮に入りました。大学の美術部にも入部して絵を描き始めたのですが、大学の美術部の人は皆个性的で仲間に入れてもらえない。それで半年ほどで退部しました。寮では寮委員長をしたり、美術サークルを作って、近くの中学校に声をかけて写生会を開いたりもしました。絵の世界とは付かず離れずという状態でしたが、大学を卒業して日本IBMに入社し、コンピューターにかかわるようになりました。絵の世界からは離れていましたが、1982年、中国の北京に出張した時万里の長城に行く機会がありました。行ってみたら、そのスケールの大きさ、壮大な情景に圧倒されました。それで万里の長城を絵を描きました。久しぶりに20号サイズの水彩画です。それを東京の公募展に出展したら入選しました。それが本格的に絵を再開するきっかけになりました。それから約40年になります。今年に5,6枚は描いているので、作品の数は二百数十枚になっています。振り返ってみると、私が絵を身近に感じるようになった中学生時代から数えると70年余になります。その間絵を取り巻く環境は大きく変わりました。最初の頃は写真が機能しなかったので人々は写実画を描いて人の顔や姿を描き残しました。絵画の対象になるのはほとんどが人の顔、姿でした。

ユトリロの様に建物を専門に描く人や風景を描く人は少なかった。今は写真がオールマイティになり、何でも写真で残す事が出来ます。実際の風景は見ない、風景に触れないで写真を見ながら風景画を描くことも出来ます。私はずっと写実を大切にしてきました。2人が同じ風景を描いて見比べると上手下手が分かります。上手く描く事が評価になっていました。しかし今はその評価が変わり、作者が何を表現したいのか、何を訴えたい、伝えたいのか。上手に描けた喜び、それを見て欲しい、描き手のその思いはそれでいいのです。私は絵を描いて人に見せるというのは、描く人と見る人との対話なんだと思います。絵が何かを訴えている、それは作者が感じた美しさなのか、幸せ感なのか、鬱積した気持ちなのか。それを理解してほしいという思いが込められているのかもしれない。私は展覧会場に行って、展示されている絵が何かを発信している、語りかけていると感じる事があると、その人の人間性が表現されていると思うので、それはそれで素晴らしいと思います。私が若い皆さんに言いたいのは、立派に描こうと思わないでください。「私は色々欠けている、悩んでいる」その私が一生懸命描きました。未完成作品だけ見て下さい、と語りかけて欲しいのです。しっかり描きすぎない事です。大事な所はしっかり描きますが、他の所は手を抜いていいんです。他人がどう思うか考えないで描きたいことを描く。下手でもいいのです。その人らしさを貫く。それを大切にしましょう。



梅澤武男会長



蛭谷要之介幹事



鹿島孝夫前会長



立堀佳男会員



◇ 講評

大日方会員有難うございました。大日方さんの絵は人生そのものなんだと感じました。本当に尊敬しています。

梅澤武男会長

◇ 開会点鐘

梅澤武男会長

《今後の主な行事予定》

- ◇ 9月21日 ガバナー公式訪

《今後の例会スケジュール》

- ◇ 9月14日 12:30~13:30
- ◇ 9月21日 12:30~13:30
- ◇ 9月28日 休会